令和４年度

熊本県小学校家庭科教育研究会　八代大会

家庭や地域の人々と関わり合いながら、
よりよい生活を創り出す児童の育成

八代郡市小学校家庭科部会

目次

Ⅰ　研究主題　1

Ⅱ　研究主題設定の理由　1

Ⅲ　めざす子供像および研究の視点と内容　1

Ⅳ　研究の実際　2

☆第5学年

「食べて元気に『ごはんとみそ汁』」

☆第5学年　5

「生活を支えるお金と物」

☆第6学年　8

「こんだてを工夫して」

研究同人

Ⅰ　研究主題

家庭や地域の人々と関わり合いながら、よりよい生活を創り出す児童の育成

Ⅱ　研究主題設定の理由

新学習指導要領では社会の変化に加え、家族や生活スタイルの多様化に対応できる資質・能力の育成を目指すこと、資質・能力については、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し習得した知識及び技能等を活用して課題を解決する力と実践的な態度を育成することが示された。

また、八代市の小学校教師の実態調査では、家庭科の学習方法として、「調理、制作、洗濯・掃除」等の実践的・体験的な活動は、「よく行う」「割と行う」の回答が高かった。家庭と地域との連携に関わるものでは、どの項目も、「できていない」「行っていない」等、課題としてあげている教師が２５％ ～４０％と高い。児童アンケートでも、家庭・地域への関心が薄いことがうかがえる。このことから、 地域と関わりながら、よりよい生活を実現する資質・能力を育成していく授業改善が課題であることが明らかになった。大きな被害を受けた水害を経験した八代では、予測困難な厳しい社会の中でもいろいろな人と協働してよりよい生活をつくりだそうとする子どもの育成を目指したいと考え、本主題を設定した。

Ⅲ　めざす子供像および研究の視点と内容

本実践は、第５６回全国小学校家庭科教区研究大会（第５１回熊本大会）の研究成果を踏襲した。

＜めざす子供像＞

○　日常生活に活用できる知識及び技能を身に付けている子ども

○　生活に課題を見いだし、協働的に解決を図る子供

○　家庭や地域の人々との関わりを考え、よりよい生活を実現しようとする子供

＜研究の視点と研究内容＞

視点１‥知識及び技能の確かな習得を図る教育課程の工夫

研究内容‥題材配列、教材の工夫

視点２‥問題解決的な学習の充実を図る学習指導の工夫

研究内容‥主体的・対話的な学びを深めるための授業改善

‥ＩＣＴの効果的な活用

視点３‥自分の成長を促し、資質・能力を育む学習評価の工夫

研究内容‥ふりかえりシートの活用

‥家庭との連携

１　視点１：知識及び技能の確かな習得を図る教育課程の工夫

（１）題材配列、教材の工夫

生活に生きて働く知識及び技能を習得し、それらを活用する力を育むために、題材配列や教材の工夫を行った。繰り返し学習することにより「知る」ということにとどまらずに「なぜそうするのか」という概念レベルの知識及び技能を身につけさせることをねらいの一つとした。

２　視点２：問題解決的な学習の充実を図る学習指導の工夫

（１）問題学習解決的な学習過程

家庭科では、子供自身が自分の生活を見つめ、家庭科で身につけた基礎的・基本的な知識及び技能を家庭生活の状況に応じて活用できる力をつけたい。また、それぞれの家庭生活について主体的に関わり自らの力で生活における諸活動を行うことができる子どもを育てたいと願う。そのためには、教師が主導的に教える授業から、子ども自身が問題解決の方法を友だちと協働しながら学び研究していく授業へと変換を図る必要がある。そこで身

につけさせたい資質・能力に即した学習課題を設定し、生活課題について自分の生活経験と関連づけ、様々な解決方法を友達と行う、問題解決的な授業を行うことに取り組んだ。

（２）ＩＣＴの効果的な活用

コロナ禍となり、子供一人に一台のタブレットPC配布も行われ、活用の幅も広がった。そこで、タブレットPC活用の工夫に取り組んだ。「発表ノート」や動画、写真機能等を用いて授業づくりを行い、子供自身が自分の生活を振り返ったり、共通課題に対し友達と共に課題解決を行ったりする活用方法の工夫を行うこととした。

３　視点３：自分の成長を促し、資質・能力を育む学習評価の工夫

（１）振り返りシートの活用

「めあて」に対する「まとめ」、一時間の学習に対する「振り返り」の時間を確保した授業を行った。ふりかえりでは、学習シートを活用し、自己評価する視点を設け、子ども自身が自分の学習についてしっかりと確認できるよう工夫を行った。

（２）家庭との連携

学習したことを家庭生活に生かし定着できるようにしたいと考える。そこで、「学校で学んだことを家庭で実践してみよう」と学習後に家庭生活を巻き込んだ活動を設定することとした。その際は、「視点２の２」にも関連させ、ＩＣＴ機器を活用した。

Ⅳ　研究の実際

第５学年　全８時間

１　題材名

「食べて元気に『ごはんとみそ汁』」

B （１）アイ（２）（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ） イ（３）

２　題材の目標

（１）食事の役割や日常の食事の大切さと食事の仕方や食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせてとることについて理解している。

（２）おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。

（３）家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返ったりして生活を工夫し、実践しようとする。

３　題材の評価規準

（１）知識・技能

①食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。

②米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解している。

③米飯の調理に必要な米や水の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。

④我が国の伝統的な配膳の仕方について理解しているとともに、適切にできる。

⑤みそ汁の調理に必要な材料の分量や計量、調理の仕方について理解しているとともに、適切にできる。

（２）思考・判断・表現

①おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。

②おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画について考え、工夫している。

③おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について、実践を評価したり、改善したりしている。

④おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。

（３）主体的に学習に取り組む態度

①伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。

②伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調

理の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

③伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について工夫し、実践しようとしている。

4　題材終了時の児童の姿

伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理について、おいしく作るための課題を設定し、解決に向けて取り組みながら、自分と家族の食生活をよりよくしようと工夫したり、生活文化を大切にしようとしたりする児童

5　題材を通した学習課題

日本の伝統的な日常食である「ごはん」と「みそ汁」のおいしい作り方を探り、家族に喜んでもらえるようなレシピを作ろう。

6　本題材で働かせる見方・考え方

伝統的な日常食であるごはんとみそ汁を、「健康」や「生活文化の大切さへの気付き」の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

7　指導計画（全８時間）

時	学習活動
1	食事の役割と日常の食事の大切さについて理解するとともに、米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解する。
2	米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだし、おいしく食べるための課題を設定する。
3	日本の伝統的な日常食である米飯の調理や配膳の仕方について理解し、適切に炊飯や配膳する。
4 5	日本の伝統的な日常食であるみそ汁の調理について理解する。発表ノートを使って味噌汁の作り方をまとめる。
6	「家族のためにおいしいごはんとみそ汁を自分で作ろう。」の「オリジナルみそ汁」の調理計画を考え、工夫する。
7	オリジナルみそ汁のレシピを発表し、改良する。
8	「家族のためにおいしいごはんとみそ汁を自分で作ろう。」の調理計画を振り返る。

8　研究との関連

視点２：問題解決的な学習の充実を図る学習指導の工夫

（1）授業改善を図るための方法

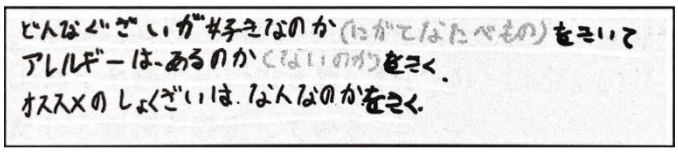
レシピを作成するにあたって、スカイメニューの発表ノートを活用した。一つずつの作業をカードにし、動かしながら、レシピを考える活動を行った。１からレシピを考える必要がないため、子供達もどんどんオリジナルのレシピを作る姿が見られた。

また、プログラミング的思考である「目的に必要なタスクを分解し、どのような順序で手順を組み立てていけばよりスムーズにできるのか」という観点でも考えさせることで、よりよい順番を考えながら取り組む姿が見られた。

視点３：自分の成長を促し、資質・能力を育む学習評価の工夫

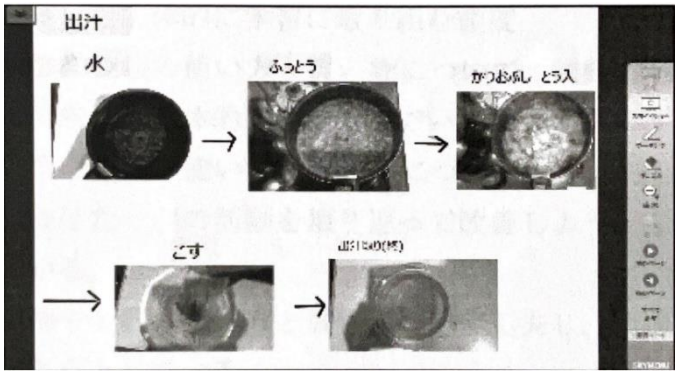
（1）成長を自覚し、学びの価値を高める評価方法の工夫

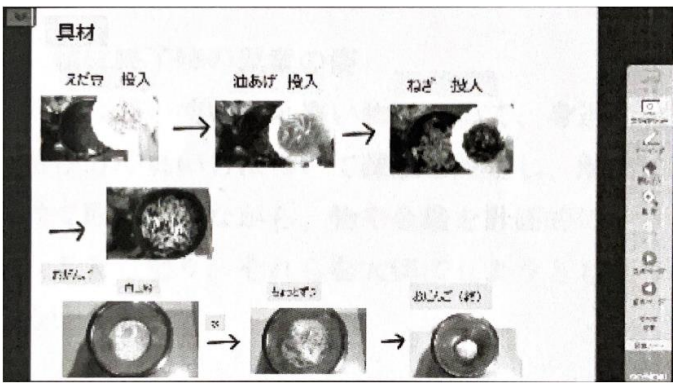
発表ノートを活用して、「振り返りシート」を作成し、学習のまとまりごとに学習の気づきや、これからどうしたいかなどを残していった。子供達が単元のゴールに向け、次時までにしておきたいことの記述が見られ、学習を通して、「知識・技能」だけでなく、「主体的に学習に取り組む態度」も評価する際に活用することができた。

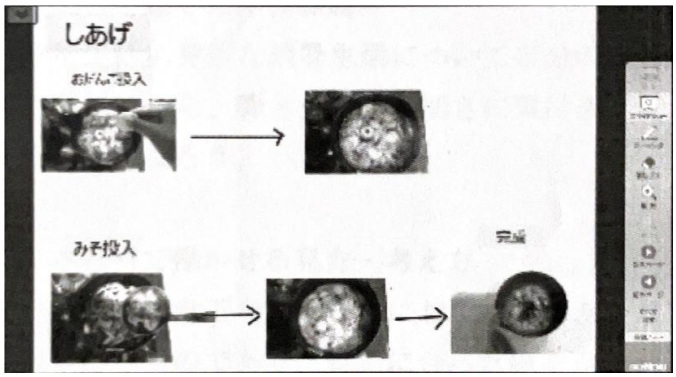


（2）家庭との連携

新型コロナウイルスの影響により学校で調理実習ができないため、家庭と連携し、調理を家庭で行い、その様子を写真に収めるようにした。その写真やふり返りを評価の一つに活用することができた。







9　成果と課題

〇発表ノートを活用することで、子供の思考の流れや考えを把握することが容易にできた。

〇対話を通して、お互いのレシピを共有することができ、それぞれの良いところを生かし、改善した方が良いところを書き直す姿が見られた。

〇家庭と連携することで、全員が調理実習を確実に行うことができた。

●栄養素についても触れたつもりだが、子供達のレシピを見ると好きなものを入れている場合が多かった。栄養バランスにも目を向けさせる取り組みが必要だった。

●地域との関わりがあまりなかったので、地域の人から聞き取りをする活動を入れ、地域の特産物にも目を向けることができるような授業展開を作りたい。

実践事例　第５学年　全８時間

１　題材名「生活を支えるお金と物」

C （１）ア（ア）（イ）イ（２）アイ

A （３）ア（ア）イ　B（２）アイ

２　題材の目標

（１）買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解する。

（２）身近な物の選び方や買い方が分かり、購入するために必要な情報の収集・整理がで

（３）身近なものの選び方や買い方の工夫を考え、自分の生活の課題を解決する。

３　題材の評価規準

（１）知識・技能

①物や金銭の大切さについて理解している。

②買い物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解している。

③身近な物の選び方、買い方について理解している。

④購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。

（２）思考・判断

①物や金銭の使い方と買い物について問題を見いだして課題を設定している。

②身近な物の選び方・買い方について考え、工夫している。

③身近な物の選び方・買い方について実践を評価したり、改善したりしている。

④身近な物の選び方・買い方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。

（３）主体的に学習に取り組む態度

①物や金銭の使い方と買い物について課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。

②物や金銭の使い方と買い物について、課題解決にむけた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

③物や金銭の使い方と買物について工夫し実践しようとしている。

４　題材終了時の児童の姿

物や金銭の使い方と買い物について、身近な物の選び方や買い方について課題を設定し、解決に向けて取り組みながら、物や金銭を計画的に使うよう工夫したり、それらを大切にしようとしたりする児童。

５　題材を通した学習課題

日常生活に身近な消費生活について自分の生活との関わりから、物と金銭の大切さに気付き、買い物名人になろう。

６　本題材で働かせる見方・考え方

日常生活に身近な消費生活において「物と金銭は限りあるものであり、目的に合った物を選んだり、計画的に購入したりすることの大切さへの気付き」の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

７　指導計画（全６時間）

時	学習活動
1	これまでのお金の使い方を振り返り、学習課題を設定することができる。
2	生活に必要なお金について調べ、限りある物や金銭の有効な使い方について理解する。
3	売買契約について理解することができる。
4	筆箱の買い方を通して、目的に合った買い物の計画的な買い方を考えることができる。
5	購入するために必要を収集・整理し比べることができる。
家庭	学習したことをもとに、買い物のポイントに気をつけながら、買い物をする。
6	家庭で実践したこと発表し、振り返る。

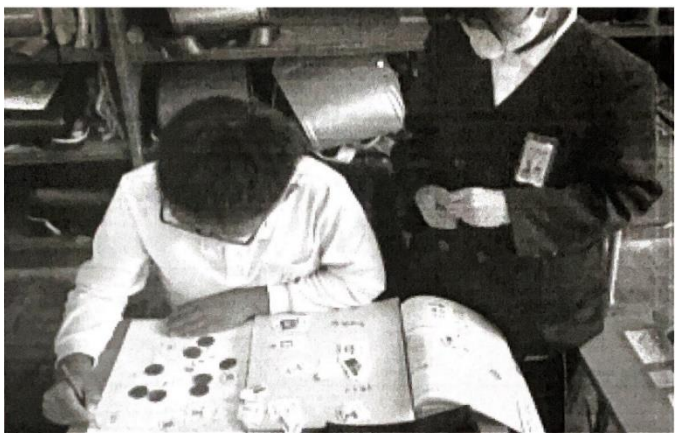
８　研究との関連

視点２：問題解決的な学習の充実を図る学習指導の工夫

（１）学びを深めるための対話的な活動

子供たちは、日常生活の場面で家族と買い物に行ったり、学校の売店で学習に必要な道具を買ったりなど、様々な場面で買い物を経験している。さらに、単元を学習する際に行ったアンケートの結果から、買い物に行く子供は、全体の７割を超えていたので、ほとんどの子供たちが日常的に買い物をしていることが分かった。

単元の前半で、「買い物ゲーム」をした。子供たちはペアになって、５００円以内で用意してあるジュースやお菓子、本などを買う体験をした。限られた金額の中で、自分が欲しいものを買うのか、必要な物を買うのか、今は買わなくてもよいのかなど、買う物に順番を付けたり、消費者として気を付けるべき点などに気付くことができた。また、ペアで「買い物ゲーム」をすることで、決められた予算内で買うためのアドバイスや、お得に買えるのはどちらの方かなど、活発に意見交流をすることができた。



（買い物ゲームの様子）

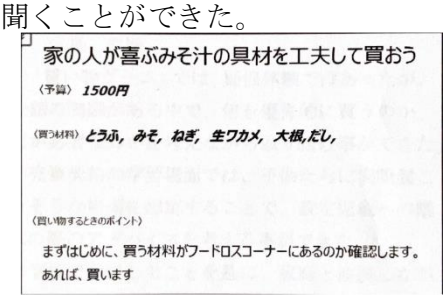
また、売買契約について理解する学習では、「設定児童が『新商品を買ったけど、家に同じような物があるから、家に帰った後、買ったことを後悔している』ため、どのようなアドバイスをするといいか」について考えていった。「自分が欲しいものは買った方がいい。」、「同じような物を持っているから、今は買う必要はない。」「買って後悔するより、買わなくて後悔する方がいやだ。」など様々な考えがでた。前時や他教科の学習内容、SDG ｓの観点などから、子供たち設定児童に対してどうアドバイスするとよいかを考えていくことができた。さらに、子供たちが経験したことがあるような状況設定をすることで、自分自身と重ね合わせて考えることができ、活発に話し合いながら問題解決を行うことができた。

（２）ＩＣＴの効果的活用

現在の教育現場において、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学校における様々な教育活動が制限されている。実技教科にとって、体験活動はとても重要である。本題材でも、売買契約について学習した後、買い物の実践を行いたかったが、実施が難しかったため、各家庭で実践した様子をタブレットで撮影することにした。

売買契約の成立や購入するために必要な情報を収集・整理し比べる学習をした後に、-家族がおいしいと喜ぶみそ汁の具材を買おう」と課題を設定し、家庭で買い物の実践をするようにした。学習の成果としての取組を設定することで、買い物の視点が明確になった。

実践に伴い、スカイメニュー （タブレットにインストールされてあるアプリケーション）の発表ノートを活用した。買い物の計画、取組の内容（文や写真)、振り返りを一連のシートにポートフォリオで記録していった。家庭で実践した後に、学級のデジタルテレビで一人一人発表し、全体で共有することができた。タブレットを活用することで、家庭での実践が写真として記録に残り、成果として発表することができた。子供たちも友達がどんなみそ汁の具を選んだのか、どのような視点で買い物をしたのか、どのような感想をもったのかなど発表を意欲的に聞くことができた。



家の人が喜ぶみそ汁の具材を工夫して買おう

〈予算〉 1500円

〈買う材料〉 とうふ，みそ，ねぎ，生ワカメ，大根,だし，

〈買い物するときのポイント〉

まずはじめに、買う材料がフードロスコーナーにあるのか確認します。
あれば、買います

（買い物の計画を「発表ノート」にて作成）

〈買った食材の写真〉

（家庭で買い物に取り組んだ様子）

買い物をして思ったことはいろんなことを考えながら買わないといけないことです
お母さんはいろいろ考えながら買っていることが分かりました

（買い物学習をしての感想）

- フードロスのところである材料を買って、なかったら買わない
- 家族分より多い食べ物はできるだけ賞味期限がながいものをかうようにした
- 入れないものやいらないものは買わない
- グラムよりも高いものは買わない

（買い物をした時の工夫点）

視点３：自分の成長を促し、質・能力を育む学習評価の工夫

（１）振り返りシートの活用

本単元では、生活に身近な金銭の使い方、売買契約の成立について、買い物の実践など身に付けるべき知識や実践しようとする態度などを身に付ける学習をした。そのため毎時間、学習の最後に振り返りをする時間を設けた。学習で気付いたことや、実践するときに生かそうとする意欲的な記述をする児童が多くいた。

これまで、買い物は日常生活の中で当たり前の行動であるため、改めて計画を立てたり、売買契約を知ったりすることで、買い物をする時の意識も変わっていったようだ。また、子供たちの振り返りを通して、学習の時に得た、「知識・技能」のみならず、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」についても評価することができた。

買い物の仕組みについて分かったことを振り返りましょう。
けい約が成立するのは「これください！」と言ったときということと、返品はお店のサービスでできないところもあるということをはじめて知りました。

すぐにこれと買うんじゃなくて計画をたてていいものをかう。

（売買契約を学習した児童の感想）

（２）家庭との連携

昨今、コロナ禍において、私たちの生活様式や学校での学習環境も大きく変化してきている。家庭科では、生活を営むうえで必要な知識や技能を身に付けていかなければならないが、実践を伴う学習に制限があり、取組が難しい場面があった。そこで、基礎的な知識を学校で学習し、実践を家庭と協力して行った。家庭の買い物で気をつけている事や工夫している事をインタビューしたり、家族と一緒に買い物に行くようにしたりした。取組を通して、児童は、「必要のないお金を払わないように考えながら買い物をしていると知りました。」「材料が多くなりすぎないように、食べきる分だけの材料を買うようにしていることが分かりました。」などの感想を持つことができた。子供たちも家族と買い物を実践することで、改めて買い物の仕組みや、買い物する時に家族のために考えながら買い物をする様子を知ることができたようだ。

８　成果と課題

○「買い物ゲーム」では、疑似体験ではあったが、金額の制限がある中で、何を優先的に買うのか、何が必要なのかを考えながら取り組む事ができた。○売買契約の学習場面では、子供たちに実際起こりそうな場面を想定することで、設定児童への購入の際のアドバイスを考える事ができた。

○学校で学習したことを基に、家庭と連携しながら実践を行うことで、家庭の一員として役割を果たしたり、家族を支える経済について関心を持ったりすることができた。

●買い物の設定を、今後の調理の内容と関連させて「みそしるの具材」としたが、ますは子供の生活経験を活かした、買い物計画を立てるよう

にすると更に意欲的に取り組む事ができたと考える。

実践事例　第６学年　全１０時間

１　題材名「こんだてを工夫して」

B（１）ア及びイ、（２）ア（ア）、（イ）、（ウ）、（エ）及びイ、（３）ア（イ）、（ウ）及びイ

２　題材の目標

（１）献立を構成する、主食・汁物・飲み物・主菜・副菜といった要素が分かり、栄養を考えた一食分の献立の立て方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。

（２）米飯とみそ汁を中心として３つのグループの食品がそろった 1 食分の献立について考え、日常の食事の仕方を工夫することについて問題を見出し、様々な解決方法を考え、実践を通して考えたことを表現するなどして課題を解決する能力を身に付ける。

（３）栄養バランスを考えた 1 食分の献立の立て方や、おいしく食べるための調理の仕方を学ぶことを通して、日常の食事に関心をもち、生活をよりよく工夫し実践しようとする。

３　題材の評価規準

（１）知識・技能

①五大栄養素と３つの食品グループについて分かり、それらを構成する大体の食品を理解している。

②献立を構成する要素が分かり、１食分の献立の立て方について理解している。

③調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解している。

④材料に適した調理方法を理解し、適切に実践できる。

⑤材料の選び方について理解している。

⑥食事の役割が分かり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解している。

（２）思考力・判断力・表現力等

①１食分の献立の栄養バランスについて問題を見出している。

②１食分の献立やおいしく食べるための調理計画及び調理の仕方、楽しく食べるための食事の仕方について考え、工夫している。

③調理や食事の実践を評価したり、改善したりしている。

④調理や食事の仕方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。

（３）主体的に取り組む態度

①１食分の献立の工夫や調理の仕方、食事の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。

②１食分の献立の工夫や調理の仕方、食事の仕方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

③１食分の献立の工夫や調理の仕方、食事の仕方について工夫し、実践しようとしている。

４　単元終了時の児童の姿

栄養バランスを考えた１食分の献立を立てることができ、おいしく調理するための課題を設定し、解決に向けて取り組みながら、自分と家族の食生活をよりよくしようと工夫したり、生活文化を大切にしようとしたりする児童。

５　題材を通した学習課題

栄養バランスや誰に作るかを考えた１食分の献立を立てるには、どのような料理や食品を組み合わせ、どのような調理をすればよいのだろう。

６　本題材で働かせる見方・考え方

栄養バランスを考えた１食分の献立を、「協力・協働」や「健康」、「生活文化の大切さへの気付き」の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

７　指導計画（全１０時間）

時	学習活動
１	五大栄養素と３つの食品グループについて復習し、理解する。
２	自分がどのような食事を選んでいるかを振り返り、献立を立てるときに大切なことを考える。
３	自分が立てた１食分の献立の栄養バランスを確認する。
４	食品の選び方・保存の仕方について理解する。
５	調理の計画を立てる。
６ ７	栄養バランスのとれた食事の調理について理解し、適切に調理する。
８	調理実習を振り返り、自己評価をする。
９	家庭で実践する献立を立て、調理計画を作成する。
１０	○家庭での実践を振り返る。

８　研究との関連

視点１：知識及び技能の確かな習得を図る教育課程の工夫

（１）題材配列、教材の工夫

「献立を工夫して」の単元の導入で、５年時に学習した五大栄養素について復習する時間を設定した。これは、栄養バランスを考えた一食分の献立を立てる上で必要となる知識・技能を身に付けさせるために意図した。これをしたことで、栄養バランスのとれた一食分の献立を構成する要素が分かり、スムーズに献立を立てることができた。

視点２：問題解決的な学習の充実を図る学習指導の工夫

（１）ＩＣＴの効果的な活用

ＩＣＴを活用することにより、児童の思考の過程や結果を可視化したり、考えたことを共有化したりして主体的・対話的で深い学びを実現していった。この単元においては、献立を考えさせるときに、児童用タブレットにワークシートを送って、その献立を電子黒板に提示して発表させた。

（２）振り返りシートの活用

自分の思考の流れを振り返らせるために、視点を設けて振り返りシートに記入させた。特に、この単元では、自己の変容やどのように学んだのかについての視点を設けた。その結果、自分の学びを実感し、学び方を自覚し、次の学びにつなげることができた。

８　成果と課題

○成果

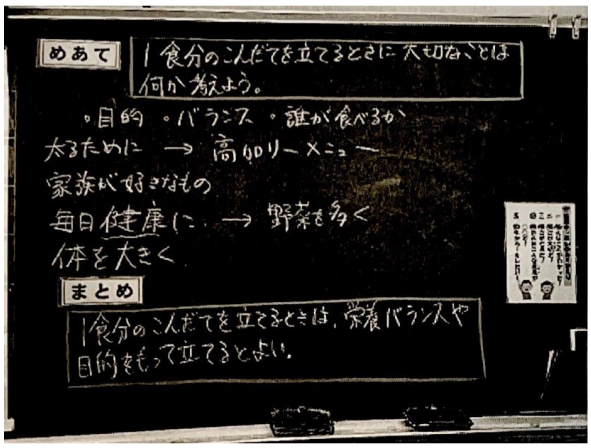
・タブレットを活用することで思考を可視化したり、共有化したりすることができた。

・視点を明らかにした振り返りをさせることで、次時への意欲につながった。

●課題

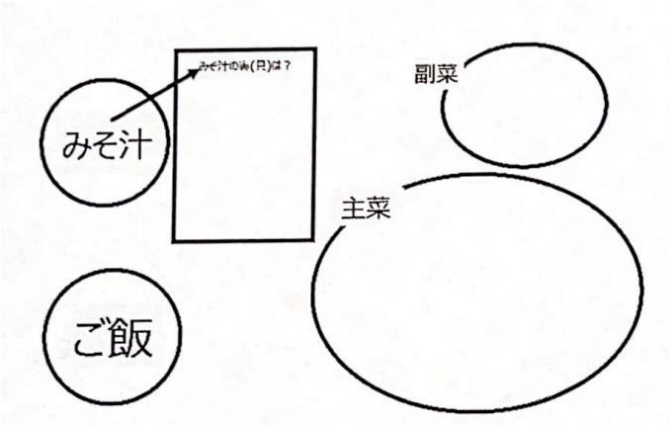
・栄養バランスを考えた献立を立てる難しさに特に注目する児童がいた。

第２時の板書



調理実習の様子

第２時にＩＣＴで配付したワークシート



Ⅴ　研究の成果と課題

成果

〇今までに学んだ知識を活用した体験的な活動や疑似体験を取り入れることで、題材ごとに必要な知識や技能が確かな習得につながった。

〇実際の生活場面と関連させた活動を計画することで、児童が今までの経験と重ね合わせて考えていくことができ、意欲的な活動となった。

〇ＩＣＴの活用で児童の思考を可視化・共有化することができた。また、対話を通してお互いによいところや考えを出し合い深めることができた。

〇振り返りシートを活用し視点を設定した振り返りを行うことで、知識や技能の習得、学習での気づきを実践に生かそうとする様子が見られ、今後の学びにつながった。

〇学校での学習を家庭と連携して行うことで実践へとつながった。

課題

●児童が生活の場面での課題に気づき自ら解決に向けて取り組むような学習活動を設定していくことが必要である。

●他教科との関連を図ったり地域との関わりを持ったりする活動を取り入れていくことができるような題材の研究や授業展開が必要である。

●家庭と連携した活動を振り返ったり発表し合ったりすることで、より生活と結びついた活動を行うことができるのではないか。今後そのような活動も取り入れていく必要がある。

研究同人（八代教育研究会小学校家庭科部会）

令和3年度

部会長　糸山　常利（八代市立郡築小学校）

部長　　成瀬　光　（八代市立郡築小学校）

副部長　松本恵理子（八代市立八千把小学校）

　　田口　直子（八代市立麦島小学校）

書記　　田中　春美（八代市立二見小学校）

会計　　赤星　彰則（八代市立松高小学校）

　　阪井　裕香（八代市立松高小学校）

会員　　合津　沙也加（八代市立代陽小学校）

　　松舟　翔子（八代市立太田郷小学校）

　　深田　美紀（氷川町立宮原小学校）